

You, Unlimited

龍谷大学

国際学部



RYUKOKU
UNIVERSITY

2027

Faculty of

International
Studies

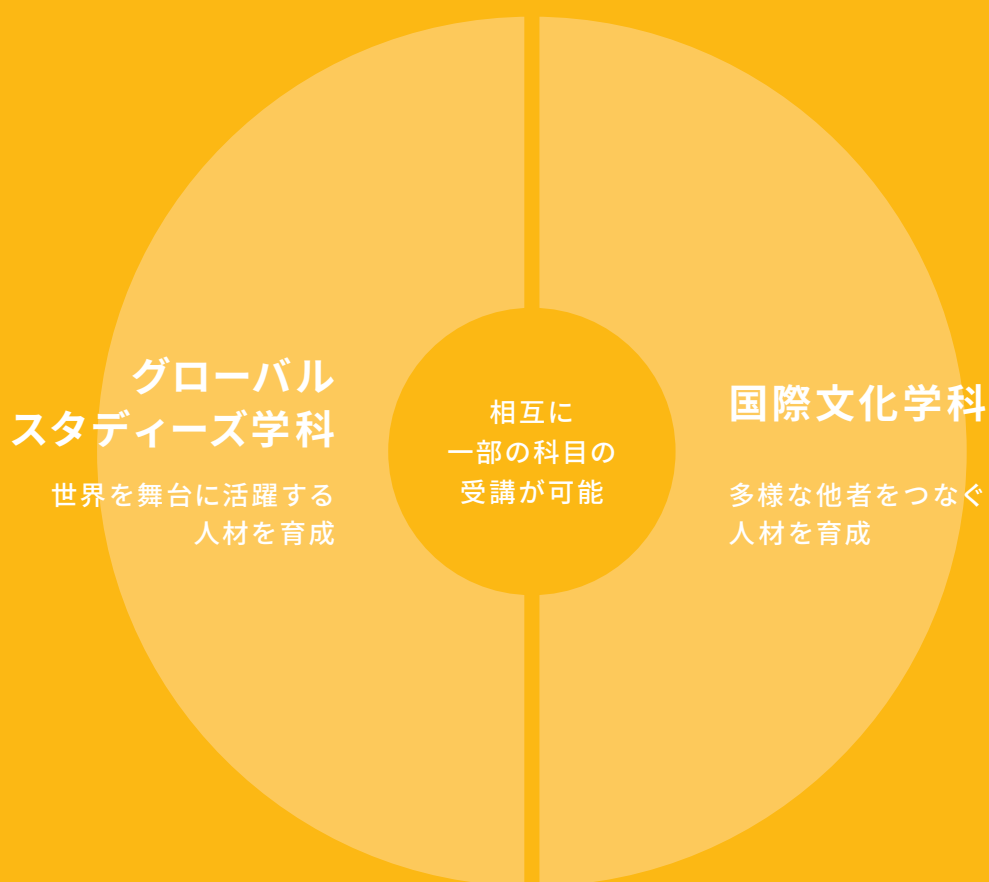


Crossing Borders, Creating the Future

「ボーダー」を飛び越え、 未来を創る

世界は、今、戦争や紛争・貧困・環境汚染・気候変動など
様々な地球規模の課題に直面しています。

龍谷大学国際学部では、異なる価値観やバックグラウンドがもたらす
分断(境界)を飛び越え、文化や社会の多様性を理解し、
自分事として未来を築いていくことのできる人材を育成します。



Project #1

▼解決をめざす「社会課題」

文化遺産の継承と異文化理解

大浦 千紘さん

国際文化学科 3年生
(大阪府立今宮高等学校出身)



久松 英二教授

国際文化学科
[専門分野] 神学／宗教学(東方
キリスト教神秘思想、
比較宗教思想)



イタリアで感じとる 芸術・文化・信仰の系譜 多文化共生の真髄にふれる

古代から現代へ地層のように重なる文化
ヨーロッパ文明の根幹をなす精神性を体感する

イタリアでは、古代ローマ、キリスト教中世、ルネサンス、現代文化が地層のように重なり合っています。イタリア文化研修では、ミラノやヴェネツィア、フィレンツェ、ローマといった主要都市をめぐり、文化の変遷を体感します。この研修は単なる観光ではありません。都市ごとに異なる建築、絵画、宗教施設を訪ね、ヨーロッパ文明の根幹をなす精神的・美的な伝統を肌で感じとることが目的です。授業と自主的な調査で事前に文化情報を収集し、体験から得る学びをレポートにまとめて完結します。現地では、圧倒的な存在感を放つバロック建築やルネサンス期の人文主義的な絵画など、教科書で学んだ知識としての歴史を、実体験としてとらえ直します。時代を超えて受け継がれてきた文化の連続性と根底にある人々の価値観にふれることで、表層的な異文化理解を超えた深い洞察力と、多文化共生の視点が養われます。

「消費」するのではなく「継承」する
多文化共生に向けた真の理解をうながす

グローバル化により文化の均質化が進む現代において、地域固有の文化や宗教的伝統への理解と尊重は、国際社会共生の基盤であり、文化遺産保全と観光の両立は世界的な社会課題となっています。この課題解決の鍵は、観光客として文化を消費することではなく、その土台である歴史や信仰を理解し、尊重する主体の育成にあると考えます。学生には、現地で文化の成り立ちを学び、宗教や芸術の背景にある人々の価値観を理解してもらいます。多様な文化のあり方にふれ、文化遺産の継承と観光活用の両立という現代的な課題を感じてもらいます。「見る」から始まり「考え・感じ・伝える」という学びの全過程をとおして、視野が世界へ広がっていくのを実感できるでしょう。現地で感じとる景色は、持続可能な文化交流のあり方を考える契機となり、他者を尊重する姿勢、多文化社会で主体的に行動する力につながります。



知識としての芸術が「体験」に変わる瞬間 本物の圧倒的なエネルギーに心が震えた

幼い頃から絵画が好きで、美術や芸術を深く学びたいと考えていました。複数のプログラムのなかからイタリア文化研修を選んだのは、ルネサンスの中心地を訪ね、本物を自分の目で確かめたかったからです。教科書で何度も見てきた作品ではあるものの、現地で実物を目にした瞬間の衝撃は、想像を遥かに超えていました。レオナルド・ダ・ヴィンチの《最後の晚餐》《受胎告知》、ミケランジェロの《ピエタ》《最後の審判》、ボッティチェリの《春》《ヴィーナスの誕生》、どれもただ素晴らしく、教科書では気づけなかった質感や立体感、空間の広がりや繊細な描写まで、感じることができました。細部にまで宿る画家の魂や、作品が置かれた場の空気を体感し、知識でしかなかった芸術が、五感をとおしたリアルな「体験」へと昇華された気がします。本物にふれる重要性を、身をもって知ることができました。

静寂のアッシジとヴェネツィアの夕陽 感じとる心が、文化への視座を広げる

もっとも心に残っているのは、中世イタリアの面影をそのまま残しているアッシジという小さな街です。観光地の喧騒とは無縁の落ち着いた雰囲気と聖フランチェスコ聖堂を中心とした街全体の静けさが印象的で、特に神父さまに修道院を案内していただいた時間は、文化や宗教が暮らしにどう根づいているかを肌で感じる貴重な経験でした。ヴェネツィアで見た夕陽の美しさも忘れられません。いつか沈むといわれているあの街で、尊敬する先生、大切な友人たちと眺めた夕陽は、ただの風景ではなく、時間の尊さと出会いの奇跡を感じさせてくれました。人々の息づかいや時の流れを体感するなかで、文化や芸術を心で感じとる大切さに気づき、自国や他国の文化をより広い視点でとらえられるようになったと思います。イタリアで体得した「文化の面白さと奥深さ」を周囲に伝えられるよう、これからも学び続けます。

Project #2

▼解決をめざす「社会課題」

異文化理解・言語の壁

吉村 泰希さん

グローバルスタディーズ学科 4年生
(京都市立東宇治高等学校 出身)



夢へのファーストステップ
言葉の壁を乗り越え
相手の懐に飛び込む

ヒマラヤの麓で、憧れのホテル業界に挑戦
地道な努力が本物の信頼関係を生む

ホテルや航空業界への就職に活かせると考え、「海外キャリア実践Ⅰ・Ⅱ」を履修しました。インターンシップ先に選んだのは、文化も習慣も異なるネパールのリゾートホテルです。渡航前には、物価や食生活など、徹底的に調べました。特に宗教には細心の注意を払い「左手は不浄」とされるヒンドゥー教の教えに倣って、右手だけを使うよう意識しました。また、先生や先輩からのアドバイスのもとに、現地で想定されるトラブルの対処法や、訛りの強い英語への対策も万全を尽くしました。しかし、現地で直面したのは想像以上に高い「言語の壁」でした。ネパールも日本も英語は第二言語であり、訛りに慣れるまで意思疎通は困難を極めます。それでも諦めず、ジェスチャーを交えながら積極的な対話を続けていると、ある日「このセクションにも働きに来てほしい」と声をかけられたのです。仲間と認めてもらえた気がして、胸が熱くなりました。

ネパールでの経験を力に変え
さらなる高みをめざす

インターンシップで得た最大の学びは、接客に対する意識の変化です。日本のおもてなしとは異なる、ネパールならではのあたたかなホスピタリティや、お客さまの文化的背景を尊重する姿勢に触れ、視野が大きく広がりました。スタッフ同士が部署の垣根を越えて助け合う姿も、日本ではなかなか見られない光景です。年功序列に関係なくプライベートでも交流するほど、スタッフ間の絆が強いことにも驚きました。異文化を持つ人々と協働し、信頼関係を築いていくなかで、英語を介したコミュニケーションにも自信が湧いた気がします。キャリアへの考えもより明確になり、ホテル業界に絞って就職活動を行った結果、憧れのホテルから内定をいただくことができました。ネパールでの経験は、今後のキャリアにおいて大きなアドバンテージとなると確信しています。地道な努力を重ねて成長し、いつか必ず「海外のホテルで働く」という夢を実現します。





3ヶ国で触れた多様な英語と文化 間違いを恐れず発信する強さを獲得

語学力の向上はもちろん、異文化や国際問題への理解を深めるため、提携留学先として、アイルランドに加え、短期語学研修を利用し、ニュージーランドとカナダの3カ国での留学に挑戦しました。ヨーロッパ、オセアニア、北米とまったく別のエリアを選んだのは、国ごとに違う英語訛りや生活習慣の違いを肌で感じ、比較したいと考えたからです。海外生活をとおして、国や人によって価値観が大きく異なることを体感し、多様性を受け入れる柔軟な心が養われました。現地の授業では、日本以上に積極性が求められます。わからないことは解決するまで質問し、間違いを恐れず発言する現地学生の姿に最初は圧倒されました。しかし、その環境に身を置いたことで、「自分の意見をしっかりと持ち、堂々と主張する」姿勢が身につきました。3度の留学を通じて、環境の変化に動じず前向きに取り組む精神的な強さを得たことは、私にとって大きな自信となりました。

手厚いサポートでトラブルを克服 「やってみよう」の精神で未来をひらく

留学前には大学のサポートデスクを活用し、現地の情報を収集しました。アイルランド留学の直前に体調を崩した際は、学校やホストファミリーとの調整、航空券の手配まで親身にサポートしていただき、安心して渡航することができました。留学を重ねるうちに対応力が鍛えられたのか、現地での交通トラブルや言葉の壁にも冷静に向き合い、その時々状況に応じて落ち着いて対処できたと感じています。苦手なことも新しいことも「まずはやってみよう」と前向きにとらえられるようになったことが、一番の成長かもしれません。留学先で韓国人の友人ができたことをきっかけに、現在は、韓国語の勉強も始めています。英語以外の言語を学ぶことで、さらに深く異文化を理解したいという意欲が湧いてきました。留学で培った、語学力と異文化理解のスキルを自らの強みとし、グローバル社会で活躍したいと思います。



Project #3

解決をめざす「社会課題」▼

異文化理解・多様性の尊重



佐久間 萌衣さん

グローバルスタディーズ学科 4年生
(兵庫県立西宮北高等学校 出身)

3度の留学で培った、挑戦する勇気 失敗を恐れず、自分らしい未来へ踏み出す

Project #4

解決をめざす「社会課題」▼

多文化共生・多様な価値観

藤本 将太さん

国際文化学科 4年生

(三重県立木本高等学校* 出身)

※現: 三重県立熊野青藍高等学校木本校舎



覚悟を決め、一人で挑んだ フランス留学が 世界への扉を拓く

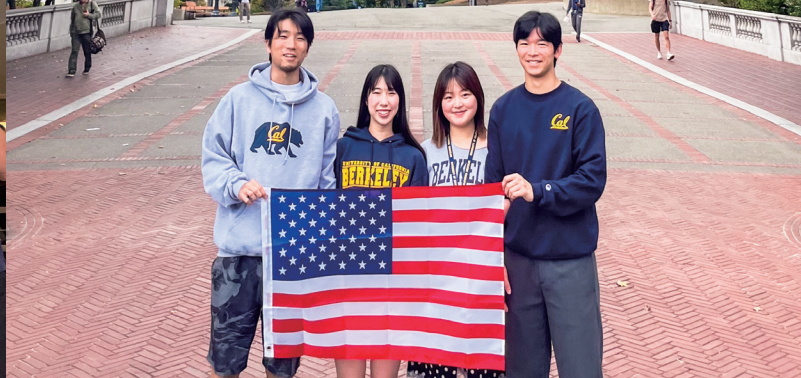
間違いや失敗を恐れず 相手に自分の思いを伝える

大学で出会ったフランス語が、私の世界を大きく広げました。高校までの英語学修とは違い、ネイティブの先生の発音を真似る「音」を重視した学びが楽しく、相手にことばが伝わる喜びに夢中になりました。龍谷大学からの派遣人数が一人であったフランス・リールカトリック大学を留学先に選んだのは、「一人で立ち向かう」という覚悟があったからです。強い覚悟をもって臨んだものの現実は厳しく、現地の授業では、間違いを恐れず発言する学生たちを前に、気後れしてしまいました。授業についていくのに必死で、当初は先生に個別で質問に行ったり、友人とノートを見せ合ったりと、試行錯誤の連続でした。そんな私の転機となったのは、現地の先生の「完璧な正解よりも、伝えようとする姿勢が大事」ということばです。間違いや訛りを気にせず、自分の意見を伝えようと努力する学生に囲まれた環境が、「間違いが怖い」という気持ちを少しずつ溶かしてくれました。

多様性の中で見つけた 私らしいコミュニケーションのあり方

フランスでの生活は、新しい発見の連続でした。服装や髪型、肌の色、宗教的背景が異なる人々が日常の中で自然に共存しており、それぞれが周囲の視線を気にすることなく、自分らしく生活している様子が印象的でした。そうした環境の中で、周囲の視線を過度に意識する必要がないと感じるようになり、人の目を気にしすぎていた過去の自分から、少しずつ解放されていきました。公共の場での挨拶を欠かさないフランス文化にも大きな影響を受け、帰国してからもその文化を踏襲しています。また、文化の異なる友人との対話を通じて、意見が衝突しても感情的にならず、相手を尊重しながら深く議論する力も身につきました。「相手の背景を理解し、多様な価値観を柔軟に受け入れる力」は、ホテル業界で働くという夢にも直結しています。この経験はお客さま一人ひとりの異なるニーズに応え、最高のサービスを提供するうえで、必ず役立つに違いありません。





発言しないことは欠席と同じ 自分の殻を打ち破り、新たな境地へ

世界トップレベルの環境で自分を試したいと考え、カリフォルニア大学バークレー校への留学を決意しました。留学に向けて最も注力したのは、英語力の強化です。ネイティブの友人と交流し、若者言葉からスラングまで生きた英語を学びました。入念に準備したつもりでも、ディスカッション中心の授業に全くついていけません。発言しなければ出席していないとみなされるほど厳しい環境下で、当初は英語へのコンプレックスから自分の殻に閉じこもっていました。転機となったのは「パブリックスピーキング」の授業です。「完璧でなくてもいい、自分の言葉で伝えることが大切」と声をかけられ、意識が劇的に変化したのです。間違いも学びの一部と前向きにとらえ、自ら積極的に発言するよう心がけると、学期末には先生から「最初とは別人のように成長したね」と褒めていただけるまでになりました。

「当たり前」の違いを受け入れる寛容な心 他者に寄り添う姿勢が、世界を広げる

留学生活で得た最大の気づきは、「自分にとっての当たり前は、他者には通用しない」ということです。多様なバックグラウンドをもつ学生との交流を通じて、文化や価値観の違いによって、物事の感じ方や考え方が大きく異なることを知り、相手の価値観を理解し受容する柔軟性が養われました。さらに、日本では意識していなかった社会問題やキャンパス内の社会格差の現実を目の当たりにし、社会をより広い視野で俯瞰できるようになった気がします。また、現地で多くの人に助けってもらった経験から「次は自分が誰かの助けになりたい」と思うようになり、行動も大きく変わりました。困っている観光客や留学生を見かければ迷わず声をかけ、サポートを実践しています。留学を通じて得た共感力と行動力、そして精神的な強さを他者に寄り添う力に変え、自分の世界と可能性をさらに広げていきたいと考えています。



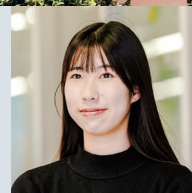
Project #5

解決をめざす「社会課題」

多文化共生・対話の重要性

西添 友梨さん

グローバルスタディーズ学科2年生
(大阪府立花園高等学校出身)



自分の思いを伝えることが何より大切 名門大での挑戦でつかんだ、確かな自信

Hot Topics

国際学部の取り組み

1

GS IC

留学しやすい学修環境

グローバルスタディーズ学科

「英語を学ぶ」から、「英語で学ぶ」へ 正規専門科目受講をめざす提携留学

グローバルスタディーズ学科は、1 Semester以上の留学※を必修にしています。本学科の提携留学は、海外大学の附属機関で英語を学ぶ「語学留学」のほかに、現地の一般学生と同じ授業を履修する「正規専門科目受講」をめざします。滞在先はホームステイやキャンパス内の学生寮であり、大学生同士の交流も自然に行われます。

※ 留学先により異なりますが、現地での授業は15週間程度となります。

国際文化学科

国際文化学科では留学を必修としていませんが、強く推奨しており、留学先の学修成果を国際文化学科の単位として認定することで、4年間での卒業が可能な留学制度を整備しています。また、1 Semester以上の長期留学（私費・交換）では龍谷大学の授業料を免除※するなど、経済的なサポートも充実させています。

※ ただし、留学在籍料（半年あたり15万円程度）と諸経費の納入が必要です。

【提携留学先一覧】



【アイルランド】
ユニバーシティ・カレッジ・コーク



【アメリカ】
カリフォルニア大学 パークレー校



【アメリカ】
南カリフォルニア大学



【アメリカ】
南ミズーリ州立大学



【カナダ】
アルバータ大学



【カナダ】
ブリティッシュコロンビア大学



【カナダ】
レイクヘッド大学



【オーストラリア】
タスマニア大学



【オーストラリア】
ディーキン大学



【ニュージーランド】
ワイカト大学



【マルタ】
マルタ大学

2

GS

「海外キャリア実践Ⅰ・Ⅱ」で海外インターンシップに挑戦

グローバルスタディーズ学科では、必修留学を終えた学生の次のステップアップとして、「海外キャリア実践Ⅰ・Ⅱ」を開講し、将来海外で活躍したい学生の実践の場を提供しています。本講義では、企業や国際機関、行政組織やNGO/NPOなど幅広い職業分野における海外でのインターンシップに2週間～6週間程度（合計就労時間40時間以上）従事します。インターンシップの事前・事後では、ビジネスマナーやメール・履歴書の書き方、海外渡航先で起こりうる問題にどのように対応していくかについてを学修します。また、インターンシップ前後の学生が一緒になり、相互の情報共有や学び合い（ピア・エデュケーション）を実践します。

【インターンシップ先一覧（例）】

- 高校での日本語授業運営（ニュージーランド）
- ホテルスタッフとしての業務一般（ネパール）
- 区役所での自治体業務一般の補助（オーストラリア）
- メジャーリーグ春季キャンプの会場運営（アメリカ）

※ 受入先都合により変更になる可能性があります。



3 IC リサーチセミナーⅢで深める実践的な学び

国際文化学科では、1年次の必修科目「リサーチセミナーⅠ・Ⅱ」において、「国際」や「文化」に関する学術的なリサーチ方法を学んだ後、2年次には、「リサーチセミナーⅢ」を履修します。「リサーチセミナーⅢ」では、多様なテーマや地域を対象にフィールドワークや海外での文化研修、アートやメディアコンテンツ制作など多数のプログラムから自身の興味関心に応じて選択することができ、実践的な学びが広がっています。

[プログラム一覧(例)]

- 韓国文化研修
- パリ・ロンドン文化研修
- 中央ヨーロッパ文化研修
- フィリピン文化研修
- 祇園祭研究・実体験
- 京都のまちを知り、京都で日本の文化を学ぶ
- 映像制作ワークショップ
- 音楽と表現ワークショップ
- プレモダン&レトロな名建築を巡る
- NGO/NPO国内エクスターンシップ

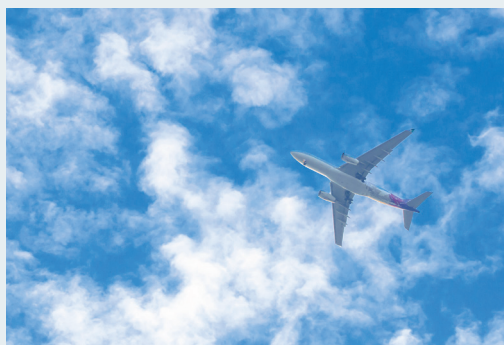
※毎年度プログラムの内容は、変更となります。



4 GS IC 大手航空会社就職講師による講義

国際学部では、大手航空会社の2社から就職講師を派遣いただき、「ホスピタリティ論」「観光社会論」「国際文化学特別講義B(エアラインビジネス論)」^{※1}、「観光文化論A」^{※2}の計4科目を開講しています。旅行・観光業界そして航空業界をめざす学生にとっては、実務経験豊かな講師の講義を受講することにより、より自身がめざす進路に応じた実践的な幅広い知見を学ぶことができます。

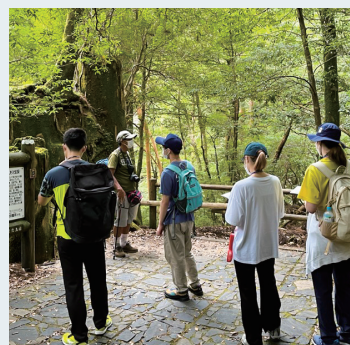
※1 国際文化学科開講科目
※2 国際文化学科 グローバルスタディーズ学科 開講科目



5 GS IC 学部の取り組み・イベントをSNSで発信

国際学部では、学修生活における学生の取り組みや学びの姿をInstagramとX(旧Twitter)をとおして発信しています。

SNSをフォローして、よりリアルな目線での学部の学びを知ってください。



4-Year Studies

学部サイト



4年間で何を学ぶ？

世界を舞台に活躍するための
幅広い教養とコミュニケーション能力を修得する

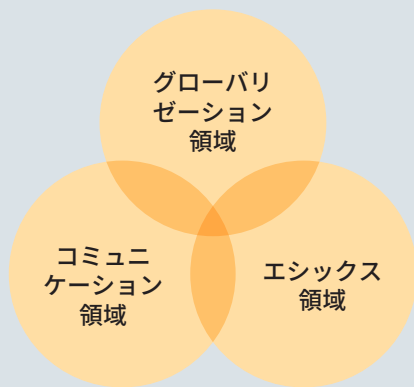
高い語学運用能力をベースに留学などで国際感覚を磨く

グローバルスタディーズ学科では、専攻科目の約90%が英語または英語+日本語で開講され、高度なコミュニケーション能力を養います。
国際文化学科では、英語を中心とした11ヶ国語の幅広い外国語教育をとおして、国境や文化の違いを超えて考える力を養います。

グローバル スタディーズ学科

世界を舞台に活躍する人材を育成

グローバルスタディーズ学科では、1セメスター以上の留学※が必修、TOEIC®L&R730点などを卒業要件としています。国境を超える問題を複眼的に学ぶ専門科目教育をとおして、文化や習慣の異なる人々とのコミュニケーション能力、世界的に通用する倫理観、グローバルな視野をもった人材を育成します。

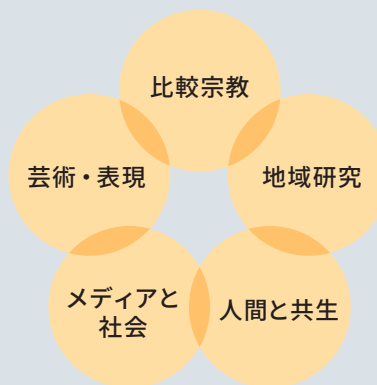


※ 留学先により異なりますが、現地での授業は15週間程度となります。

国際文化学科

多様な他者をつなぐ人材を育成

『世界を学び、私を知る』をキーワードに、世界の多様な言語と文化を学び、〈私〉を取りまく文化の理解を深め、世界に向けて日本文化を発信できる人材、異なる文化間に生じる問題を調整することのできる人材、そして国際社会における多様性の尊重に貢献できる人材を育成します。そのため、学生自身の関心にもとづき、以下の5科目群等から科目を選択して学びを深めます。



	1年次		2年次		3年次		4年次	
	1セメスター	2セメスター	3セメスター	4セメスター	5セメスター	6セメスター	7セメスター	8セメスター
グローバルスタディーズ学科	外国語・学科科目の基礎をしっかりと身につける		専門的な学びに踏み込み、1セメスター以上の留学へ*		1～2年生で培った英語力を活かす専門講義科目がスタート		4年間の学びの集大成 英語による卒業論文作成へ	
	学科外国語科目		留学プログラム					
	学科基礎科目		学科専攻科目					
			グローバリゼーション領域 グローバルな視点からの知識と思考力		グローバリゼーション領域 + コミュニケーション領域		グローバリゼーション領域 + コミュニケーション領域 + エシックス領域	
			コミュニケーション領域 他国の人たちと論議できる英語力		コミュニケーション領域 + エシックス領域			
			エシックス領域 世界で通用するゆるぎない倫理観		グローバリゼーション領域 + エシックス領域			
グローバルキャリア入門		卒業時の英語力を保証 グローバルスタディーズ学科では、右のいずれか以上の点数を取得することが卒業要件の1つ。これらのスコアは、企業が英語力のある人材と認めるレベルで、就職活動の際にアピールできます。				TOEIC® L&R 730点	IELTS™ 6.0	TOEFL® iBT 80 ITP® 550
リサーチ方法論A	リサーチ方法論B	プロジェクト演習	演習Ⅰ・Ⅱ		演習Ⅲ	演習Ⅳ	卒業論文	
		海外キャリア実践Ⅰ・Ⅱ						

*留学先により異なりますが、現地での授業は15週間程度となります。

	1年次		2年次		3年次		4年次		
	1セメスター	2セメスター	3セメスター	4セメスター	5セメスター	6セメスター	7セメスター	8セメスター	
国際文化学科	大学での学びに向け、語学とその他の学びの基礎を身につける		さらに高度な外国語を学び、自分に合った科目群や科目を選択		より興味・関心に合わせた専攻科目やゼミで学ぶ		これまで取り組んできたテーマを卒論にまとめあげる		
	学科外国語科目		国際文化学科						
	リサーチセミナーⅠ	リサーチセミナーⅡ	リサーチセミナーⅢ	専門演習A	専門演習B	卒論演習A	卒論演習B	国際文化 Study Project A～D	
			海外研修(北米、ヨーロッパ、東アジア、東南アジア、オセアニアなど)						
			科目群選択(以下の科目群5つから選択して履修)						
			比較宗教	仏教・キリスト教・イスラームなど世界の宗教文化の特色を理解し、共通点や相違点を比較分析する。宗教の観点から異文化理解と実践的交流をめざす。					
			地域研究	地域特有の文化や社会・経済、人々の生活を比較考察して、アジア・太平洋地域を中心とした相互理解をめざす。また、京都の地域文化を多角的に学ぶ。					
			人間と共生	人と自然、人と人の共生の現状と可能性をさぐる。グローバル化や都市化にともなう人の移動や住環境、自然や社会の変化を対象として、理論とフィールドの両面から探究する。					
			メディアと社会	グローバル化と情報化が進む現代社会におけるメディアの役割・意義・課題などを探究する。また、自ら情報を発信する際に必要となる技法や倫理を学ぶ。					
			芸術・表現	芸術をとおして、文化を国際的な視点で学んでいく。美術、舞台芸術、文学、漫画などのアート表現を中心にそれらの理論と技法を多角的に研究する。					
国際ツーリズムプログラム 「観光客」「観光業」「観光地」など、国際的な観点から多面的に学びます。									
短期留学・長期留学(交換留学・私費留学・RISE Program)									

[取得可能な免許・資格]

- 中学校教諭一種免許状(英語)
- 高等学校教諭一種免許状(英語)
- 学芸員
- 本願寺派教師資格(受験資格)

[めざす職業・進路]

- グローバルスタディーズ学科
- 民間企業の国際部門
- 国際機関職員
- NPO/NGO団体職員
- 翻訳・通訳者
- 英語科教員(中学校、高等学校)
- 海外大学院進学

国際文化学科

- 企業(航空業、運輸業、貿易、観光業、商社、IT、石油関連)
- 英語科教員(中学校、高等学校)、学芸員、研究者
- マスメディア(テレビ、新聞、出版、広告)
- NPO/NGO団体職員、公務員

Seminars

ゼミ紹介

グローバルスタディーズ学科 中根 智子 ゼミ

世界の平和と貧困

ゼミでの探究心を原動力に
地球規模で課題をとらえる

個々の熱意を尊重する、自由な学びの場

高校時代からジェンダー学に興味があり、この分野が専門である中根先生のゼミを選びました。「グローバリゼーションがもたらす国際的な制度」という大きなテーマから、個々の興味を深く掘り下げていくのが、ゼミのスタイルです。ゼミでは、最近のニュースについて意見を交わしたり、互いの研究内容や留学で得た知見を共有したりと、常にオープンな雰囲気の中で議論が交わされます。研究テーマも、子ども支援政策やオーバーツーリズム、児童労働など多岐にわたり、仲間が取り組む研究に刺激を受け、自分だけでは得られない視点にも出会えました。それぞれの熱意を尊重し、不足を補い合いながら学びを深めていけるのが、最大の魅力です。意見や情報の正確性、多面的な見方に対して、先生は的確なアドバイスで、自由な探究心を支えてくれます。

ゼミ生同士の多角的な議論で、より高い視座へ

「なぜ北欧は幸福度が高いのか」という1年次からの疑問を探るため、デンマークに留学しました。超福祉国家デンマークで得た「幼児教育のあり方が幸福度につながる」という気づきをゼミで共有すると、仲間から歴史的背景や経済的な側面など、多様な視点による質問や指摘が返ってきます。こうした対話を通して、研究がより深い考察へと昇華していくのを実感します。ゼミ生との闊達かつ多角的な議論により、社会課題とは、政治・文化・歴史といった要因が複雑に絡み合って生じるのだという理解に辿りつきました。物事を地球規模の課題として幅広くとらえる視点が養われたことも、大きな成長です。「幸福度とジェンダー学、教育」というテーマで研究をさらに深化させ、この研究成果を、未来を担う子どもたちのために役立てたいと思います。



藤岡 依弥さん

グローバルスタディーズ学科 4年生
(鹿児島県立指宿高等学校 出身)



その他の学生研究テーマ (参考) [グローバルスタディーズ学科]

- フィリピンにおけるCSO(市民社会組織)の貧困対策
- 近年の世界情勢における極右政党の台頭はなぜ起こっているのか
- 敦賀とユダヤ人～ユダヤ人救済の過去と自己認識の形成～
- Peaceful End, Devastating One or Otherwise: Most Possible End of the Ukraine War
- The Impact of Enthusiasm: How Teachers, Parents, and Peers Shape L2 Motivational Self among Japanese Learners of English
- 在留外国人の新聞メディアでの表象から探る社会共生の可能性～在日コリアン、ベトナム人、クルド人難民を対象に～



国際文化学科 友永 雄吾 ゼミ

多文化共生のあり方

「異質なものを排除しない」
世界の寛容さを、多文化共生社会の礎に

文化人類学の視点から見た多文化共生のあり方

高校時代のニュージーランド留学が、私の学びの原点です。言葉も文化も異なる環境で、現地の生活習慣や価値観の違いを知り、強く惹かれました。特に印象的だったのは、英語が話せずルールも知らない私を、ホストブラザーが「一緒にやろう」とタッチラグビーの仲間に受け入れてくれたことです。「異質なものを排除しない」文化的な寛容さに触れ、その一部として認められた喜びは忘れられません。この体験から、文化や言語の違いを超えて人が共に生きる社会のあり方に関心を持ち、多文化共生を文化人類学的な視点から探究できる友永ゼミを選びました。現在は、地元である滋賀県彦根市を中心に、外国にルーツをもつ生徒がいじめなどの課題にどう直面しているかを調査し、ニュージーランドの教育と比較しながら解決策を模索しています。

フィールドワークで培った、まとめる力

ゼミ活動のなかで特に印象深いのは、沖縄でのフィールドワークです。伝統的な刺青「針突（ハジチ）」を調査するため、アポイント取りからインタビュー、論文執筆までのすべてを学生主体で行いました。緊張と戸惑いからスタートした調査も、試行錯誤を重ねるうちに自信が生まれ、文献を読み込んで論理的に文章を構成する方法や、現場のリアルな声から真実を導き出す手法が身につきました。来年から教員として教育現場に立ちます。ゼミで培った「背景の異なる他者を理解し、尊重する姿勢」や「課題を多角的に分析する力」は、生徒一人ひとりが安心して過ごせる学級づくりやいじめ防止に必ず活かせると思います。教科書では理解しきれない「生きた学び」を得られること、共に成長できる仲間に出会えることが、このゼミ最大の魅力です。



室井 宏太さん

国際文化学科 4年生
(滋賀県 滋賀学園高等学校 出身)

その他の学生研究テーマ（参考）[国際文化学科]

- 多文化社会カナダにおける移民の役割～経済、社会、文化への貢献と課題の実態～
- 京都のオーバーツーリズム問題に関する一考察～「よそ者」視点を用いて～
- ディズニー映画に見る多様性の歴史：人種差別的表現の検証と進化
- 舞台美術の多面性と国際的特色から見る総合芸術
- 実写版映画『リトル・マーメイド』における黒人ヘイト問題
- 雑誌『Phantasmagoria』の制作

ブリティッシュコロンビア大学 博士課程 第二言語教育学専攻 進学

英語をツールとして、
世界とつながる

カナダのブリティッシュコロンビア大学博士課程に在籍し、研究に打ち込んでいます。その原点は、学部時代に挑戦したカリフォルニア大学バークレー校での正規留学です。英語をコミュニケーションツールとして使う環境は、まさに私が追い求めていたものでした。世界中の学生と英語で親睦を深め、人生や夢を語り合った経験は、自分の英語が海外でも通用するという揺るぎない自信となりました。続く大学院では第一線で活躍する教授陣のもと、修士論文の執筆に没頭し、論理的思考力を徹底的に鍛え上げました。目標から逆算し最適な解を導き出す力は、私の強力な武器です。世界の最先端で得た知見を日本に還元し、英語教育の発展に貢献したいと考えています。

檜 雄詞さん

グローバルスタディーズ学科 2023年卒業
国際学研究科 修士課程
言語コミュニケーション専攻 2025年修了
(大阪府立門真なみはや高等学校 出身)



Life after G



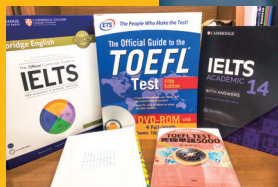
ブリティッシュコロンビア大学博士課程で第二言語教育学を研究し、日本の英語教育への貢献を目指して多様な仲間と学びを深め、日々研鑽を積んでいます。

My Background



大学1年生

図書館で仲間と課題に励み学び合った1年。互いに刺激し支え合い成長を深く実感した日々が長く続き本当に心強かった時間でした。



大学2年生

コロナ禍でオンライン授業中心の2年。自宅で過ごす時間が増え、留学を目指し英語学習に没頭し自分の可能性を広げようと努力した日々でした。



大学3年生

対面授業が戻り始めた3年。仲間と再び集い励まし合いながら学ぶ日常を取り戻し、実感できる充実した時間が続いた1年でした。



大学4年生

UCバークレーへの留学を実現した4年。異文化に触れ友情を得て視野が広がり、この経験は私にとってかけがえない宝物です。

仲西 悠さん

国際文化学科 2024年卒業
(京都市立北桑田高等学校 出身)

raduation

京都府
危機管理部 災害対策課 勤務
計画推進係

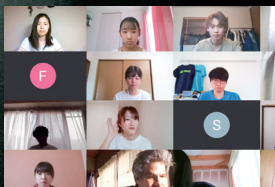
誰一人取り残さない
防災の実現へ

京都府職員として、防災計画の策定や企業のBCP策定支援、防災啓発など、自助・共助の力を高める取り組みに携わっています。災害対策を進めるには、企業や地域住民、外国人住民との協力が不可欠です。その際に役立つのが、大学時代の異文化交流や海外視察で学んだ「多文化共生」という視点です。相手の立場を尊重し多角的に物事をとらえる姿勢は、誰もが理解しやすい防災対策を考える基盤となっています。今後の目標は、府民が安心して暮らせる京都づくりに貢献することです。在学中に得た柔軟な視点を軸に、府民の皆さんが防災を自分ごととしてとらえられる環境を整え、誰一人取り残さない防災の実現に寄与したいと考えています。



企業における研修会やセミナーの企画・運営、学校での防災講演、SNSやHPによる防災情報の発信など、府民への普及啓発活動にも力を入れています。

My Background



大学1年生

コロナ禍でオンライン授業が中心の生活。新しいツールを使いこなしながら学びの幅を広げる、貴重な経験でした。



大学2年生

外国人留学生と共同で研究発表に取り組みました。互いの視点を活かして議論を深める有意義な学びだったと思います。



大学3年生

1年生のグループ発表にファシリテーターとして参加し、後輩の議論をサポート。学びに向き合う姿勢を意識するようになりました。



大学4年生

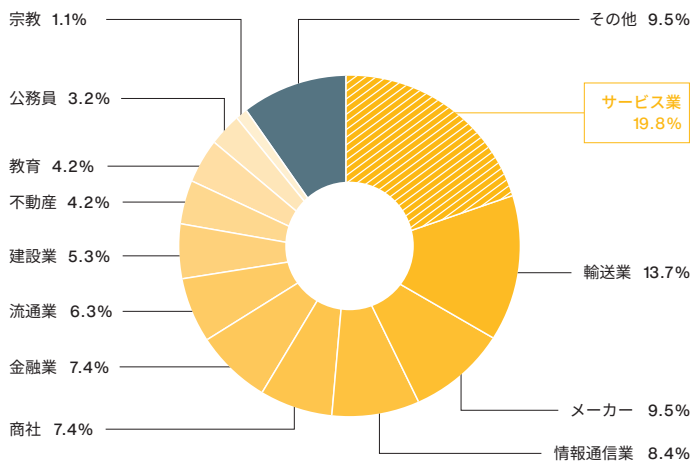
卒業論文に向けタイで調査を実施。社会や文化に触れ、テーマへの理解を深めました。現地での経験は、研究の助けとなりました。

Careers

国際学部の就職

就職状況 (2025年3月卒業生)

グローバルスタディーズ学科



[主な就職先]

世界を舞台に活躍する人材をめざし、
教員が万全のサポートを行っています

【建設業】

●大和ハウス工業株式会社

【メーカー】

●YKK AP 株式会社

【輸送業】

●株式会社ジェイエア

●日本航空株式会社

●ANAエアポートサービス株式会社

●株式会社近鉄エクスプレス

●西日本旅客鉄道株式会社 (JR西日本)

【商社】

●タキイ種苗株式会社

●AGC硝子建材株式会社

【流通業】

●株式会社ファーストリテイリング

●株式会社近鉄百貨店

【金融業】

●株式会社SBI新生銀行

●株式会社京都銀行

●京都中央信用金庫

【サービス業】

●アパホテル株式会社

●ANAインターコンチネンタル

石垣リゾート

【教育】

●滋賀県教育委員会

●福岡県教育委員会

【公務員】

●法務省 出入国在留管理庁

●警視庁 など



住友林業株式会社 内定

林業で持続可能な未来を叶えたい

グローバルスタディーズ学科では、留学や講義を通じてSDGsについて学びました。持続可能な社会の実現には木材利用が重要だという認識が深まり、多くの人に木のもつ素晴らしさや効能を知ってほしいという思いから、この進路を選びました。ミスマッチを避けるため、面接には自然体で臨むよう心がけました。内定先では、地球にも人にもやさしい環境づくりに貢献したいです。

岩崎 晃士さん

グローバルスタディーズ学科 4年生
(滋賀県立水口東高等学校 出身)



ANA国際空港株式会社 内定

対話と分析力で安全運航を支える

カナダ留学や卒業研究を通じて、体験を振り返り深い学びにつなげる教育設計の重要性を探究しました。データに基づき論理的に結論を導くプロセスや、多様な価値観を尊重し合意点を見出す対話力は、私の大きな強みです。グランドハンドリングは、航空機の安全を地上から支える責任ある仕事です。学部での経験を糧に日々成長し、周囲から信頼されチームの役に立てるプロフェッショナルをめざします。

塩見 涼円さん

グローバルスタディーズ学科 4年生
(奈良県立平城高等学校 出身)



ジェットスター・ジャパン株式会社 内定

多角的な視点で楽しい旅を届ける

グローバルスタディーズ学科では、子どもの労働問題やフードロスなどを研究することで、社会問題を多角的にとらえる視点が磨かれました。就職活動では、要点を絞って自分のことばで率直に伝える練習を重ね、志望する航空会社から内定をいただきました。今後は大学で養った広い視野を活かし、一人でも多くのお客さまに旅の楽しさを感じていただける、心あたたまるおもてなしを実現します。

木村 蓮響さん

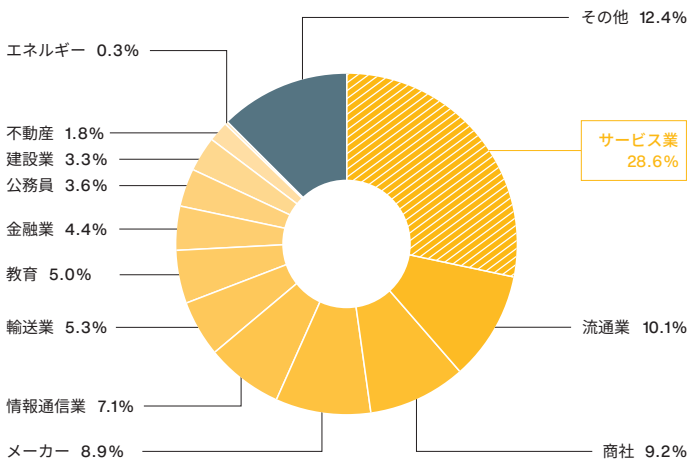
グローバルスタディーズ学科 4年生
(滋賀県立大津商業高等学校 出身)



国際文化学科

【主な就職先】

多様な世界をつなぐ人材として、
多彩な進路で活躍しています



- 【建設業】
 - 大和ハウス工業株式会社
- 【メーカー】
 - 株式会社村田製作所
- 【エネルギー】
 - 関西電力株式会社
- 【輸送業】
 - ジェットスター・ジャパン株式会社
 - 日本航空株式会社
 - ANA関西空港株式会社
 - 東海旅客鉄道株式会社 (JR東海)
- 【商社】
 - 岩谷産業株式会社
 - 株式会社良品計画
- 【流通業】
 - 株式会社ニトリ
- 【金融業】
 - 株式会社京都銀行
 - 三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社
 - 第一生命保険株式会社
- 【情報通信業】
 - 富士ソフト株式会社
 - ソフトバンク株式会社
- 【サービス業】
 - 株式会社星野リゾート
 - 株式会社エイチ・アイ・エス
 - 株式会社JTB
- 【公務員】
 - 京都府庁
 - 兵庫県庁 など

※主な就職先は業種順に記載



株式会社 JTB 内定

内定の決め手は在学中の資格取得

イスラム圏の芸術や文化を学び、観光立国・日本において訪日客と住民の双方が快適に過ごすための異文化理解のあり方を探究しました。留学や授業をとおして観光への理解を深め取得した「旅行業務取扱管理者」の資格は、就職活動で旅行業界にアピールする大きなポイントとなりました。未知の世界を知るといふ大学で体感した喜びを、これからはお客さまに味わっていただきたいです。

中尾 日南さん

国際文化学科 4年生
(大阪府立北千里高等学校 出身)



株式会社みずほ銀行 内定

文武両道の経験は大きな武器に

部活動と就職活動の時期が被ったため、業界を絞って臨みました。フランス語専攻の学びやアメリカ留学、体育会系の部活動の経験は、面接での大きな強みになったと感じます。話の引き出しが多く、面接官にもより強く自分像を印象づけることができました。在学中に得たチームワークや信頼構築力、柔軟な対応力を活かし、お客さまから信頼され、頼っていただける行員をめざします。

向井 杏樹さん

国際文化学科 4年生
(大阪府立北千里高等学校 出身)



広島県教育委員会 内定

選考で活かされた模擬授業での経験

ゼミでは英語の授業をとおして原爆について生徒に考えさせる平和教育のあり方を研究し、中高生の探究活動の支援にも携わりました。就職活動では3年次に教員採用試験の早期受験に挑戦し、教員養成講座に通って指導力を磨きました。特に、英語教授法で授業構成を練り上げた経験は、選考の際の模擬授業で大いに活かされました。これからは中学校教諭として、生徒から信頼される存在をめざします。

坊坂 旺祐さん

国際文化学科 4年生
(広島県 福山市立福山高等学校 出身)

京都深草キャンパス*

京都市伏見区深草塚本町67
Tel 075-645-5645 world@ad.ryukoku.ac.jp

大阪、奈良、兵庫から好アクセス

JR「大阪」駅 → 約42分

京阪「京橋」駅 → 約41分

近鉄「奈良」駅 → 約43分

JR「三ノ宮」駅 → 約63分

※2027年4月、「深草キャンパス」より名称変更。

龍谷大学のブランドストーリー

世界は驚くべきスピードでその姿を変え、
将来の予測が難しい時代となっています。
いま必要なことは、「学び」を深めること。
「つながり」に目覚めること。
龍谷大学は「まごころある市民」を育てていきます。

自らを見つめ直し、他者への思いやりを発動する。
自分だけでなく他の誰かの安らぎのために行動する。
それが、私たちが大切にしている
「自省利他」であり、「まごころ」です。
その心があれば、激しい変化の中でも本質を見極め、
変革への一歩を踏み出すことができるはず。

探究心が沸き上がる喜びを原動力に、
より良い社会を構築するために。
新しい価値を創造するために。

私たちは、大学を「心」と「知」と「行動」の拠点として、
地球規模で広がる課題に立ち向かいます。
1639年の創立以来、貫いてきた進取の精神、
そして日々積み上げる学びをもとに、様々な人と手を携えながら、
誠実に地域や社会の発展に力を尽くしていきます。

豊かな多様性の中で、心と心がつながる。人と人が支え合う。
その先に、社会の新しい可能性が生まれていく。
龍谷大学が動く。未来が輝く。

You, Unlimited

龍谷大学 国際学部

あらゆる「壁」や「違い」を乗り越えるために、「まごころ」を持ち、
「人間・社会・自然」について深く考える人を育む。
それが、龍谷大学の教育のあり方です。

自分自身を省み、人の痛みに感応して、
他者を受け入れ理解する力を持つ。
人類が直面するリアルな課題と真摯に向き合う。
そして様々な学びを通じて本質を見極める目を養い、
自らの可能性を広げていきます。



<https://www.world.ryukoku.ac.jp>

※掲載の学年、所属は取材時のものです。

2026年5月発行

